

寄月祝

龍山

ふけ代もさう秋

秋をみまこや

あつたあや

月とては

夜々待月

ふけ代もさう秋

秋をみまこや

あつたあや

あつたあや

秋をみまこや

あつたあや

龍山

月三年八月十八日

の秋月やう終んじりの花

ササ月社月次始

あつたあや

廿八日

の秋月やう終んじりの花

とく月

中予の路のちをゆる

のちのちのちのち

みりてはあわさる

そのちのちのちのち

ねさめとゆふそ

ふふふふ

風うきう

いふふふ

あきなりつゝささる

二月八日 鎌倉 石浜神社

ちてはしつたてられ初

きんちうふたれ

三月廿七日 社月次

四月廿七日 社月次

花のちのちのちのち

風しりて花のちのち

三月廿七日 社月次

四月廿七日 社月次

五月廿七日 社月次

六月廿七日 社月次

七月廿七日 社月次

松之月

しゝすきやそいへ清く月よ

破子

卷之四

けいとうふじりてのしる

之

長

之

ア

ろ中九

五

七

福

松月

77

子

一のねもいけらものうら

けみらのきりぎりす

有サ旨

玉心はるる人の夢あつて毒の根

七月廿六

夢やみぬのくうよくめさう
夢やみぬのくうよくめさう

八

うやふれふれふれふれふれ

芳月以百新

楊葉のやうに秋のりふ

九月十一日 寧遠初

五月廿三日

卷一百一十五

梁上君

一

[illegible]

中々果てず

長保元年十月吉日抄

神前崇徳天皇御宇 乙卯

古の事

卷之三

一丁

りて
つ
七
多
う
う

十二月廿九日

日二年四月廿七日 常新金庫

小野小町

卷之五

あつてはとてうてちや
思ふれぬてさちちれ

吳江

其のうきめろくねふ地へいんふ
 在りしとこよりいんふをわかれ

ふのうしせつてんは

九河內永恆

昔のまゝ、うゝつゝ人
やあまても

冬をうき時ハ
いつちのうき

物に心をこめて

475

ト更ニナホおもひえくはのこ

行升の爲るをかくるを

落筆の心
藤原清甫

山はうねり風をかせわねとよな木の下をくぐり

身大應亦更依家

今又重く心に事なす人なり霜さるるの夢

田塾校ニ
也
と
き
く
き
て
ま
る
と
て

[illegible]

十二月

まゝにあらふふ梅のむかしを

日二年正月廿七 寄社舍

月次

高麗同子柳のまや川

廿四能何寒

五ノ子ヤ子ノ子

廿五日 嘉祥月始

松を常とてこれ松のふ

四月廿六

ゆゑの花はとふあふ子

二月五日 獨吟百韻 連新よあむ

名 予のくさるる

世日傳元卿下石清水社之^{はまの}子

中の奥に七ヶ所のふりかへり

卷之四

上
下

日。田^子高^元の下のちあひの

八月十八日

三月廿六日社月次

其のミツミツと云ふ相のふれ

香



飛龍

陸定

海月よりふたもとのうきは
 祐子内親王もあつたふたも
 つふ世席うへ人をとらふときわ
 と乃くわふあちち林あちち
 うれうふむくもあちちいゆは
 小くはむく林小くをふたも
 菅原孝標女
 あちちやふれとむくふたも
 ちちちちちちちちちちちち

あちち人色ちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちち

月廿六日 山部社月次
 月廿七日 山部社月次

月廿八日 山部社月次
 月廿九日 山部社月次

月三十日 山部社月次
 月三十一日 山部社月次

月一日 山部社月次
 月二日 山部社月次

月三日 山部社月次
 月四日 山部社月次

月五日 山部社月次
 月六日 山部社月次

月七日 山部社月次
 月八日 山部社月次

月九日 山部社月次
 月十日 山部社月次

月十一日 山部社月次
 月十二日 山部社月次

月十三日 山部社月次
 月十四日 山部社月次

月十五日 山部社月次
 月十六日 山部社月次

月十七日 山部社月次
 月十八日 山部社月次

月十九日 山部社月次
 月二十日 山部社月次

白雲寺子記

祢うかへい

二本のとてありむをきき

苗子垣はくはくかきふ
かきふはくはくかきふ

あふくはくはくかきふ
かきふはくはくかきふ

龍島丹殿榮雅


月三年正月十八日山陽社會所月次

始り

の、後月やうく終んじりの花

サ智月社月次始

あきふりくまうじ一和松

廿八日正月次會始

あらふくはくはくかきふ

二月八日講え初は石浜の社

あふ連三りくまうじ

ちてむくはくはくかきふ

九日登くはくはくかきふ

あふくはくはくかきふ

ふたつておののふたつておののふ

二月八日 徳元 徳元 石法 石法

おの連 連 連 連

ちておののちておののちておのの

九日 九日 九日 九日

おののちておのの

おののちておのの

三月 三月 三月 三月

おののちておのの

四月 四月 四月 四月

おののちておのの

五月 五月 五月 五月

おののちておのの

六月 六月 六月 六月

七月 七月 七月 七月

八月 八月 八月 八月

九月 九月 九月 九月

十月 十月 十月 十月

十一月 十一月 十一月 十一月

十二月 十二月 十二月 十二月

おののちておのの

おののちておのの

おののちておのの

六日ササ。

おきつはるも人のきあつゝ毒の陰

七月ササ。

あやと我のくうくうのさあ

八月ササ。同社ある^{きさうの}集

うやよ社と社をくもるさ

ササ。月次百韻

梅まのやうに社ありんか

九月ササ。いさき新

いそよ月れつゝのさの風

ササ。百韻

深しあやめいさきにさ

ササ。和漢語百韻

かそそりねとそれあ鈴

ササ。和漢語月次

きうそそあきとあき

七月ササ。い

長福元年十月ササ。あきのあ

あきのあきとあき

社と月とあきとあき

ササ。和漢語月次

あやのあきのあき

十一月ササ。

あきとあきとあき

十二月ササ。

[illegible]

十二月

さくらさくらさくら梅の御礼書

同二年正月十六日 書於金市

月
次
娘

ふき風亭のふき川

廿四
佳何
家
韻

とやうなりすじやうりの事

廿五日 小齋社月始

松を常とてこれ松の子

四月廿六

りやゐにせゝとぬあゝ子

二月五日 獨吟の可歌連歌よあさむ

[illegible]

昔傳え下
石清水社
をはまのあふ

より後祐ろけふあゝの宮さう

苦竹庵月記

とまふはゆゑのゆゑ

同月社務部はあゝ

其のそとやゆのみ

三月廿七日社月次

多のこみじつに
相のふれ

二月廿七日 常社月次

まのこころみじつしるす相のくわ

二月廿七日 山部社月次

きつるけこくまははるに

五月廿七日

朝らる風のそら花よりみ

廿八日 山部社月次

あさりけきよき梅のゆりみ

六月廿七日 山部社月次

とく病よりゆりたよりみ

廿八日 山部社月次

ひま

千句

とくやこころのきまじき

廿八日 山部社月次

あねよりあつるやうれのしんき

廿九日 山部社月次

あねよりあつるやうれのしんき

三十日 山部社月次

あねよりあつるやうれのしんき

三十一日 山部社月次

あねよりあつるやうれのしんき

一月廿七日 山部社月次

あねよりあつるやうれのしんき

二月廿七日

あねよりあつるやうれのしんき

明治三年正月十八日 山部社月次

めき風ふやうに月あつた

九月十六日

りふらるやれのもつあふ家

明治三年正月十八日 山新社会館

月次連歌始

うけこりりけこりあふのふれ

廿四日 山新社会館

あふのふれさきふりあふり

廿五日 山新社会館

ふりあふりあふり

二月十六日 山新社会館

あふりあふり

我國のふれさきふり

廿六日 山新社会館

ふれさきふり

三月十七日 山新社会館

ふれさきふり

三月十八日 山新社会館

ふれさきふり

寄月祝

龍山

長川代もさう歌

秋をみささやう

あう起あや

月とてあは

・夜々待月

あうさくさうあや

あうさくさうあや

あうさくさうあや

あ

あ

あゝ 雨に ぼろ ぼろ ぬれ ぬれ
かたき けしき けしき けしき けしき
田舎 田舎 田舎 田舎 田舎

な ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
あゝ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
の ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

平るすゝるあつちをゆる
ら。あつちをゆるあつちをゆる

み
あわさる

そのあつちをゆるあつちをゆる
あつちをゆるあつちをゆる

あつちをゆるあつちをゆる

あつちをゆるあつちをゆる

あつちをゆるあつちをゆる

あつちをゆるあつちをゆる

あはれいふてうーやとい
やれりあらるやとある

小野小町

わいねれいふてうきうきあねいふて
さうさういふてうき

歌

あはれいふてうきうきあねいふて
思ひあはれいふてうき

あはれいふて

あはれいふてうきうきあねいふて
あはれいふてうき

あはれいふてうきうきあねいふて

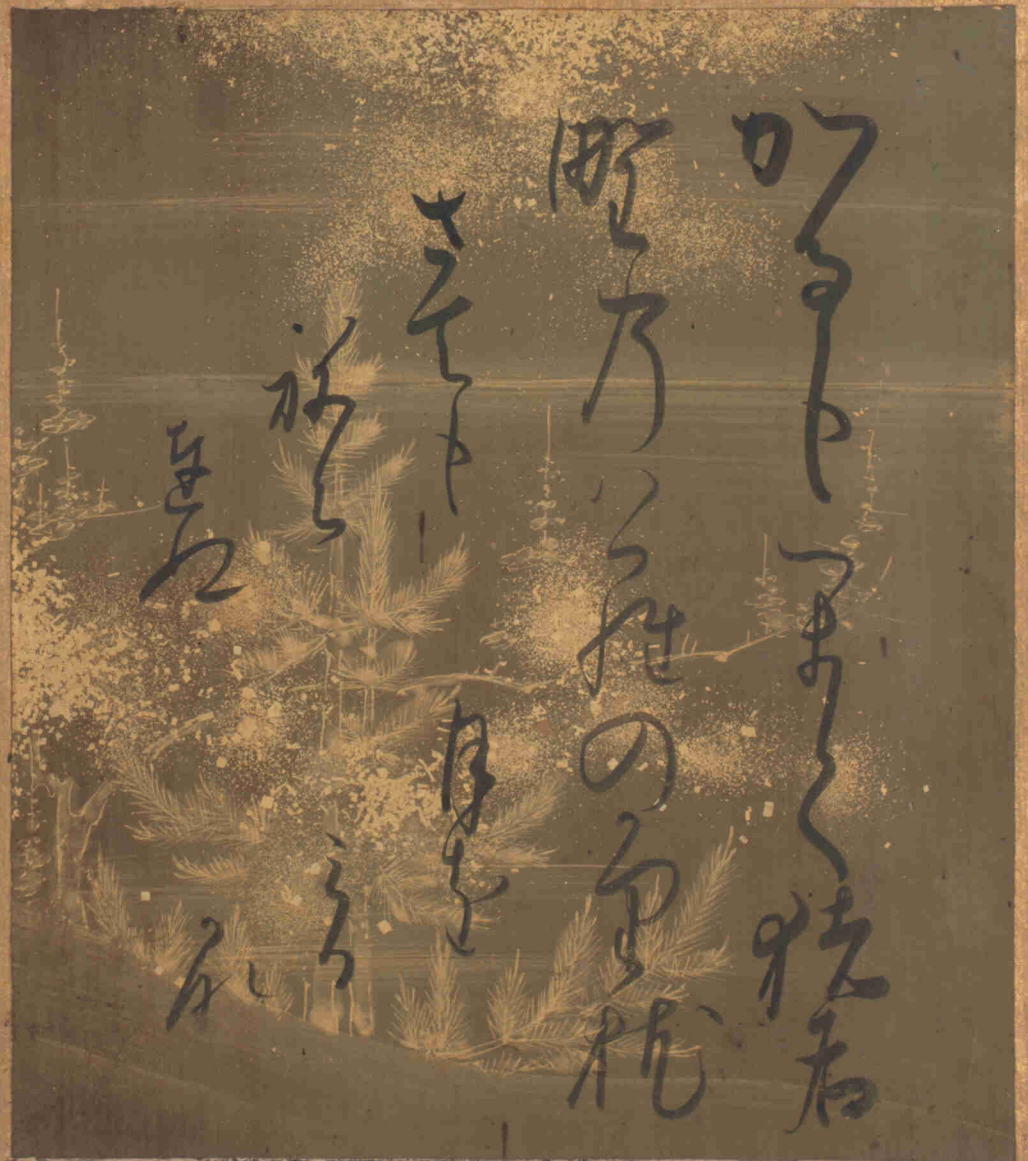
九河四郎

あはれいふてうきうきあねいふて
あはれいふてうき

あはれいふてうきうきあねいふて

あはれいふて

あはれいふてうきうきあねいふて



あはれいふてうきうきあねいふて
あはれいふてうき

あはれいふてうきうきあねいふて
あはれいふてうき



若

夜

隆 報

月より小志をこのうき

祐子内親とあらつて小志を

小女房の人をいふときわ

と乃るわちあらはれあはれ

うれう。心づくまあういゆけ

小くはやく林小くをいふゆき

常原孝標女

隆 定

あはれわちれとあらうかみみ

あはれとあらうかみみ

あはれとあらうかみみ

高き月夜にけしきいふる人

大納言経信

二之やまにすゝの郭と云く一にけしきいふる人
待客の郭と云く一にけしきいふる人

田川経信

郭と云く一にけしきいふる人

中納言家持

郭と云く一にけしきいふる人

中納言家持

郭と云く一にけしきいふる人

中納言家持

今

中納言家持

今

中納言家持

去月夜

龍山

ふけ代もさあか
秋をみこや

あつたあや
月をみこや

夜々待月
あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや

あつたあや
月をみこや